

# ベニバナイチヤクソウ

*Pyrola incarnata*

イチヤクソウ科

## 名前の由来

類似種のイチヤクソウは止血効果や抗菌・消炎・利尿作用があり、薬草として昔から親しまれたことから名前が由来しており、それに似ていて赤い花をつけることから名付けられた。  
漢字名：紅花一葉草

## 形態的特徴

高さは15～25cmほどで、地下を長く這う茎がある。葉は根元から伸びて、長い柄を持ったサジのような形。葉は光沢と厚みがあり常緑、広楕円形で先端部は丸くなり平鋸歯縁。花は径12～15mmほどで薄紅色、茎上部に多数の花が下向きに（うつむいて）つく。

## 類似種と見分け方

イチヤクソウ属の他の種。ベニバナイチヤクソウは、花のうしろにつくがく歯が三角形になるのが特徴で、これが識別点になる



ベニバナイチヤクソウ



ベニバナイチヤクソウの花。雄しべは10本で、薬（やく＝雄しべの花粉の入れもの）は赤紫色



ベニバナイチヤクソウの花。



ベニバナイチヤクソウの葉。さじ形で、葉には光沢がある

## 生活サイクル

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
開花期			■									
結実期				■								

魚類

底生動物

両生類  
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

（在来種）  
草花

（外来種）  
草花

哺乳類

（水辺）  
鳥類

（草原・樹林）  
鳥類  
ワシ・タカ

## 生育環境・分布

日がさしこむ明るい林の中、林のふちなどに生育し、群生することが多い。

**分布：**国外分布は、朝鮮、中国東北部、シベリア、カムチャツカ、アラスカ。

国内分布は、北海道と本州中部以北。

北海道内分布は、全道。

十勝地方では、日がさしこむ明るい林の中で見られるが、日のあたりにくい針葉樹林内で見られることもある。群生することが多い。



ベニバナイチヤクソウは明るい林の中などに生育する

## 生活史

**開花時期：**6～7月中旬

**開花までの年数：**不明

**寿命：**多年草。

## 他生物との関わり

花には虫が訪れる。



ベニバナイチヤクソウ。  
ハチが訪花している

## 興味深い話

- 全草が薬用に用いられ、タンニン、アルブチン等の成分を含み、収斂、止血、殺菌効果がある。
- 乾燥させたものは煎じて服用し、打撲、結核、急性腎炎、膀胱炎、尿道炎に効果があるという。
- 生葉の汁は、切り傷、虫刺され、蛇の噛み傷に外用すると、痛みを軽減し止血する効果がある。
- 葉は冬を越して春まで残る。



ベニバナイチヤクソウの葉。冬の間も枯れずに春まで残る



ベニバナイチヤクソウ。薬効がある

## 配慮事項

生育している環境全体が重要である。

### 参考文献

「北海道植物図譜」 滝田謙譲 自費出版 2001

「日本の野生植物 草本Ⅲ」 佐竹義輔・大井次三郎 他 平凡社 1981

「北海道薬草図鑑 野生編」 山岸喬 北海道新聞社 1992

「森林で遊ぼうシリーズ3 おもしろい草花の話」 北海道立林業試験場 北海道林業改良普及協会 1998

魚類

底生動物

両生類  
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種)  
草花

(外来種)  
草花

哺乳類

(水辺)  
鳥類

(草原・樹林)  
鳥類  
ワシ・タカ